

青銅合金 铸造用地金

JIS H 2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2
電話 059-268-2206 (代)
FAX 059-268-1949

販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪府中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115 (代)
FAX 06-6244-3116

東大阪倉庫
大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115 (代)
FAX 06-6782-3143

63S・D粉 銅・真鍮粉

(株) アイコー

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市湊川町2-9-27
本社 (06) 4307-0600

三重県伊賀市西之沢162
伊賀アルセンター (0595) 45-6510

日刊メタルレポート

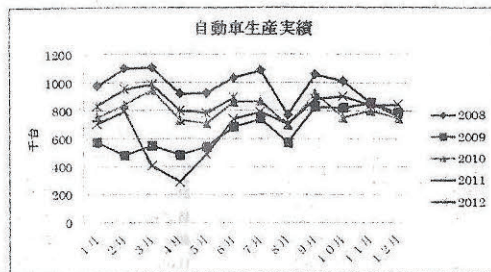
◆自動車生産台数

	4月	5月	6月
生産台数	79万9474台	78万1340台	89万3149台
前月比	-18.8%	-2.3%	+14.3%
昨年対比	+173.8%	+59.5%	+20.3%

◆自動車販売台数

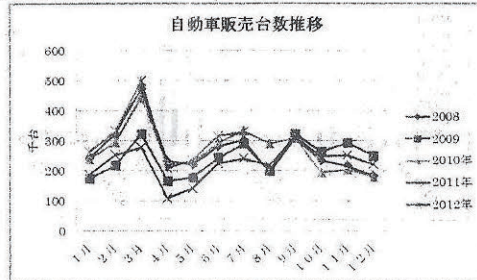
	5月	6月	7月
販売台数	23万6366台	31万7152台	32万8943台
前月比	+13.1%	+34.2%	+3.6%
昨年対比	+66.3%	+40.9%	+36.1%

自動車生産台数



出典 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



出典 日本自動車販売協会連合会

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比一四・三%増の八万九千三、一四九台であった。

◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比三・六%増の三二万八、五四三台(前年比三六・一%増)。(面へ続く)

【前月の経済指標】

後半は中国、温家宝首相が国内景気に関して慎重な見方を示し、当局高官が七・九月期のGDPに関して七・四%増まで軟化するのではなどのマイナスイ発言を行う中、米格付け会社ムーディーズがドイツ、オランダ、ルクセンブルグの格下げを行うなど悪材料が重なり、一時七、三〇〇ドル台まで急落。しかし独仏両首脳が欧州問題に関しての共同声明を発表しそれらを好感したことから、八月一日現在、前半から一二〇ドル下落の七、五二〇ドル、建値六三万円のスタートとなった。

【概況】七月前半は前月の流れを引き継ぎ好調。六月の米雇用統計の非農業雇用者数が八万人増と予測の一〇万人増を下回るなどマイナスイ材料もあったが、基本的にはECB・中国の利下げや八月の中国CPI(消費者物価)が二・二%増とインフレ判断の四・五%を下回ったことによる中国の景気対策期待から上昇。七、六九〇ドル(セツル)と約四〇ドル上昇しての前半締めとなった。

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836

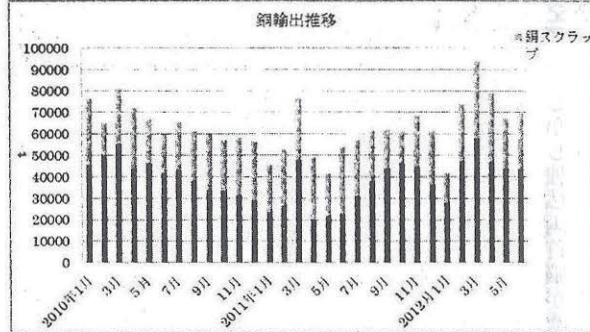
購読料 半カ年44,100円(前納) 3カ月22,050円

新設住宅着工戸数は伸び悩む

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート①

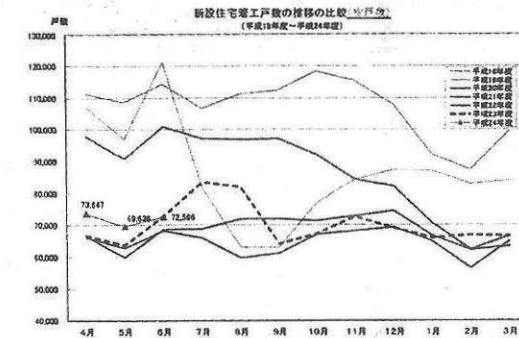
自動車関連はなおも堅調

輸出	4月	5月	6月
電気銅	4万6807 t	4万3866 t	4万3366 t
前月比	-18.9%	-6.3%	-1.1%
スクラップ	3万2009 t	2万2997 t	2万5905 t
前月比	-11%	-28.2%	+12.6%
輸出推移			



◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が一・一％減の四万三、三六六t、スクラップが一・二・六％増の二万五、九〇五t。

	4月	5月	6月
新設住宅着工数	7万3647戸	6万9638戸	7万2566戸
季節調整 前月比	+5.7%	+0.8%	+7.3%
昨年対比	+10.3%	+9.3%	-0.2%
新設住宅着工数推移			



(二面より続く)

◆新設住宅着工戸数

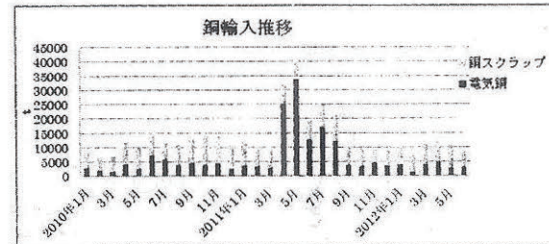
国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)七・三％増(昨年比〇・二％減)の七万二、五六六戸であった。

銅スクラップ輸出一二・六％増

輸入は電気銅が一九・七％増加

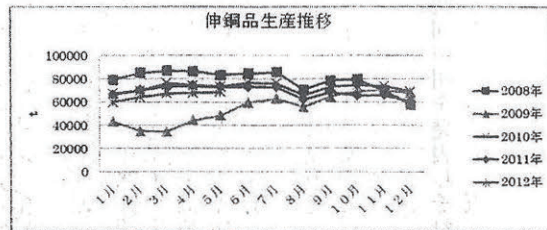
輸入は電気銅が前月比一九・七％増の三、二五八t、スクラップが二九・二％減の五、五六二t。

輸入	4月	5月	6月
電気銅	4969 t	2721 t	3269 t
前月比	+30.4%	-45.2%	+19.7%
スクラップ	7048 t	7860 t	5562 t
前月比	-1.4%	+11.5%	-29.2%
輸入推移			



【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、六月は前月比五・一％増の六万八、七〇〇t(昨年対比六・一％減)。

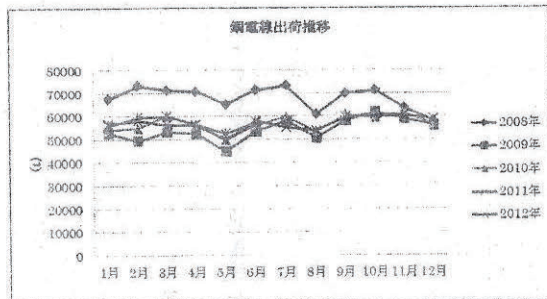


日本電線工業会発表の六月出荷速報(推定)は、前月比八％増の五万七、三〇〇tであった(昨年対比一％増)。(六面に続く)

銅スクラップの需給
メーカーの買い気は薄い夏場にだけ

銅相場 LME 七千八百ドルで推移か

(二面より続く)



【見通し】

今月も自動車関連は絶対好調、ただ住宅関連は伸び悩みが感じられた。

欧州懸念は独仏両首脳の間で共同声明や ECB ドラギ発言の期待感から現在は安定。

自動車生産は前年比二〇・三%増の八九万三、一四九台と一カ月連続上昇し、堅調に推移。

また、国内自動車販売台数も三二万八、五四三台で前年比三六・一%増と急上昇。

自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比五・一%増の六万八、七〇〇tで、昨年対比では六・一%減とまたまた前年割れ。

銅電線出荷量は、前月比八%増の五万七、三〇〇t、昨年対比一%増と五カ月連続回復へ。今回も自動車向けに助けられ形に。

新設住宅着工数は季節調整前月比七・三%増の七万二、五六六戸、前年比は〇・二%減とやや伸び悩み。

輸出に関しては、電気銅輸出が前月比一・一%減の四万三、三六六tと三カ月連続の減少。

銅スクラップは一二・六%増の二万五、九〇五tとこちらは二桁上昇した。

輸入は電気銅が一九・七%増の三、二五八t、スクラップは二九・二%減の五、五六二t。

銅需給に関しては、先月も、自動車関連の本格的な需要が継続、販売面でも自動車が前年比三六%増と大幅増加。一方で住宅着工数は〇・二%減(前年比)と伸び悩み。またその他の関連業界は引き続き悪化しており、伸銅品生産に関しては八カ月連続悪化の六・一%減(前年比)。

絶対的な発生量の不足も夏季休暇やその後の先行き不安(欧州問題)からメーカーは買い気薄。

銅価格に関しては、ECBの国債買取示唆や中国の胡錦濤・温家宝の積極財政発言などのプラス材料はあるが、FOMCで追加的金融緩和(QE3)が行われる可能性が低い事などから上値で七、八〇〇ドルあたり。下値も前月に続き最悪の場合でも米、中の金融緩和期待が下支えしLME価格で七、〇〇〇ドル、八〇〇ドル。銅建値に関しては五九、六五万円程度と予測している。

欧州中銀、まだ動かず

国債買い取り再開は九月以降か

欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁は二日に国債買い取りに向けた準備を進めることを表明したが、欧州安定機構(ESM)などユーロ圏の金融安全網の体制が整うことを条件に要求。買い取り開始は、ESMが発足する九月以降にずれ込む可能性もある。

七月に発足予定だったESMをめぐることは、ドイツ連邦憲法裁判所で訴訟が行われており、判決が下されるのは九月十二日。それまではESMが発足できない状態だ。

現行の安全網である欧州金融安定化基金(EFSF)による国債買い取りも可能だが、一、四〇〇億ユーロ(約一三兆六、〇〇〇億円)程度の残額が枯渇することを恐れ、ドイツなどは慎重姿勢を崩していない。また、ドラギ総裁は政治サイドがこうした不安定感を払拭するまでは、買い取りを発動しない選択をしたとみられる。

また、買い取り開始にはECBへの発言力が強いドイツ連邦銀行(中央銀行)のワイトマン総裁が反対を維持しているとみられ、ECB内での合意形成にも不安が残る。